

2026

5.23 SAT

事前
申込制

学科別 オープンキャンパス

各学科に分かれて模擬講義や実習体験、施設見学などを行い、学びの特徴や魅力をたっぷりとお伝えします。入学後の学びから卒業後の進路までをイメージできる絶好のチャンス。在学生や教職員との個別面談で、より北海道科学大学を知ることができます！
詳細は後日HPにて掲載しますので是非ご参加ください！



他にもイベントが盛りだくさん！

詳しくは
こちらをご覧ください



学校法人北海道科学大学「とことん、ひらこう。」寄付金ご協力のお願い

2025年4月から新ブランドビジョン「とことん、ひらこう。」を冠した、学校法人北海道科学大学「とことん、ひらこう。」寄付金の募集を立ち上げ、就学支援、自主活動支援、国際交流支援、地域共創支援、カーボンニュートラル推進支援の5つの事業について募集を開始いたしました。

また、個人の方には、1回で3万円以上のご寄付に対し、返礼品(卒業生企業、連携自治体、共同研究先の商品)の贈呈も行っております。

つきましては、諸事ご多端の折、誠に恐縮ですが、寄付の趣旨にご賛同していただき、卒業生、保護者、地域社会の皆様からのご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



応募期間

2025年4月1日から
随時、募集

応募の対象

- 1口……………5,000円
 - 個人……………1口以上
 - 法人……………10口以上
- ※金額の多寡にかかわらず有難くお受けいたします。

寄付の詳細につきましては、本法人の寄付金サイトにてご確認ください。
寄付金サイト > <https://ed.hus.ac.jp/donation/>

こちらからも
ご確認ください



北海道科学大学 HUS NEWS LETTER 2026年3月31日(第226号)



北海道科学大学

〒006-8585 北海道札幌市手稲区前田7条15丁目4-1
TEL: 011-681-2161(代表) FAX: 011-688-7639(代表)
HP: <https://www.hus.ac.jp/>

+Professional

コミュニケーション力、課題発見解決力、自己実現力、ヒューマニティといった基盤能力を基に、専門性を身につけた人材を育成します。すべての設置校に共通する、わたしたちのスローガンです。

設 北海道科学大学
北海道科学大学高等学校
北海道自動車学校

企画編集・発行: 北海道科学大学 入試広報センター

HUS NEWS LETTER

Vol.49 / Hokkaido University of Science

新キャンパス情報

手稲駅前キャンパス

新設学科情報

地域創造学部 地域創造学科※
情報科学部 経営情報学科※

※現在設置構想のため、内容は学部学科名称を含めて予定であり、計画変更の可能性があります。

北海道科学大学 HUS NEWS LETTER 2026年3月31日(第226号)



GREAT WIDE OPEN!
**地域と企業と人を結ぶ
 ひらかれたキャンパスから
 新しい北海道の
 未来を描く。**

法人創立100周年を機に、
 次の100年に向けて
 「とことん、ひらこう。」を掲げる北海道科学大学。
 その拠点となる新キャンパスが手稲駅前に誕生します。
 ここから地域が抱える課題解決と、
 北海道の未来に向けた価値創造、
 北科大の新たなチャレンジがスタートします。

TOPICS
01



**手稲駅前に
 新キャンパス
 誕生**

▶ P.03

TOPICS
02



進め。ありがとうが呼ぶほうへ。

**地域創造学部
 地域創造学科
 新設^{予定}**

※現在設置構想中のため、内容は学部学科名称を含めて
 予定であり、計画変更の可能性あります。

▶ P.07

TOPICS
03



文系を、進化系に。

**情報科学部
 経営情報学科
 新設^{予定}**

※現在設置構想中のため、内容は学部学科名称を含めて
 予定であり、計画変更の可能性あります。

▶ P.09

NEW CAMPUS 2027.4 OPEN

Tarukawa Street



手稲駅から徒歩6分



手稲駅前キャンパスは、地域にひらいたキャンパス。

新キャンパス（手稲駅前キャンパス）の開発コンセプトは、「TEINE BASE CAMP」。大学関係者だけでなく、在学生、卒業生、地域のクリエイターが設計に携わり、「みんなで創るキャンパス」をテーマに、今も各スペースの名称を考えています。多様な個性や文化が互いに影響し合い、エネルギーとモチベーションが循環する中で生まれたアイデアが、やがて北海道を動かしていく。そんな“基地”から、北科大の新たな学びが始まります。



「てっぽくベース」

ブランドロゴを共創。

手稲駅前キャンパスの中心となる教育施設に「てっぽくベース」と愛称をつけ、シンボルマーク・ロゴタイプを作りました。



TEPPOKU BASE

新しいことが始まる瞬間はいつだって楽しい。その様子をてっぽくベースの文字が一つの円を囲んでつながるビジュアルで表現しました。



オープンすぎる教育施設。

北海道の課題解決・価値創造のために地域とともに未来を創る場所です。



カフェレストラン

学生主体で運営 学びを実践する場

カフェレストランでは、学生が商品企画や運営に挑戦。地域の方とのふれあいを通じ、どうすれば喜んでもらえるかを考えたり、コミュニケーションを通じて学びを実践に変える場となります。



多目的ホール

使い方は自由自在、地域とつながるホール

多目的ホールは、レイアウトを自在に変えられる空間。学内セミナーだけでなく、地域の方と協働するワークショップや交流イベントにも活用が可能です。学生が社会とつながり、学びを深める舞台となります。



交流スペース

さまざまな人が交わる 地域交流の場

ひらかれた交流スペースは、地域の方やフリーランスなど多様な人が集い、地域活動などにも活用される場に。大学と地域が交わることで、アイデアがカタチになります。

NEW CAMPUS

地域創造学部 地域創造学科※
情報科学部 経営情報学科※

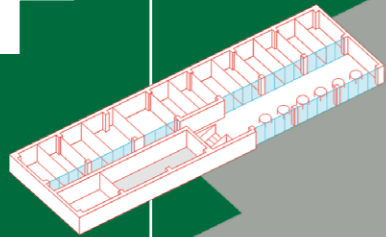
Teine Ward Office

JR Teine Station

※現在設置構想中のため、内容は学部学科名称を含めて予定であり、計画変更の可能性があります。

「てっぽくベース」の設計コンセプトは
 “地域と大学の境界を溶かす”

3F



学習ラウンジ

従来のゼミ室スタイルではなく、壁をなくしたオープンな研究空間。学生同士の交流を促し、研究室に隣接することで教員とのつながりも広がります。



ライブラリ

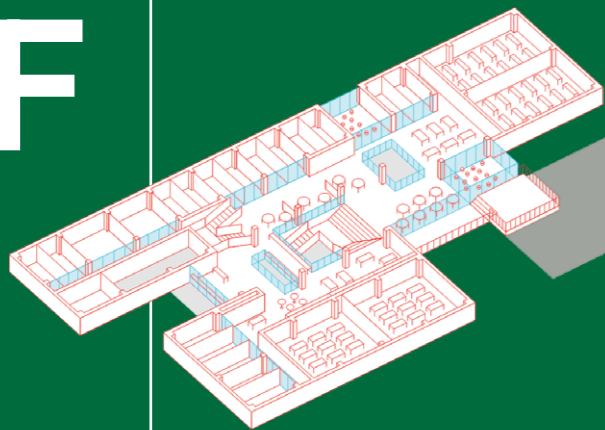
大学図書館の機能を備え、広がりのある空間で研究や学習の場として活用できます。講義室や研究室に隣接して配置し、多様な用途に対応するラーニングスペース。



アイデアルーム

創造的な発想を形にし、共有し、次のアイデアへとつなげていくための環境を備えたクリエイティブスペース。「思考を形にする」「思考を記録する」という2つの機能を軸に、創造力を推進します。

2F



踊り場ステージ

学生が学びの成果を共有したり、小さな発表を行える場。吹き抜けに面した中2階に設けることで、多くの人に開かれた空間となります。



クラフトスタジオ

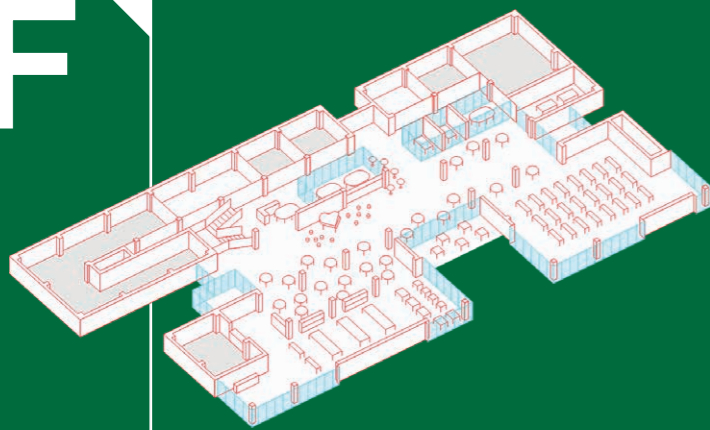
特殊な機材を備えた、デザインやクラフトのためのオープンスタイルの作業空間。アイデアをかたちにして試行錯誤することで、頭の中の構想を新たな発見に導くことができます。



交流スペース

手稲の山並みが一望でき、各機能が交流スペースにしみ出る大空間。集中エリア、活動エリアに分け、自由に研究の場所を選べるワークスペースとしての役割を担います。

1F



カフェレストラン

教職員や学生だけでなく、地域の方々にも開かれたカフェ・共創スペース。食事はもちろん、勉強や仕事、ワークショップや発表会など、多様なイベントに活用できます。



カウンター

1階の中心部に配置される、誰でも気軽に立ち寄れるオープンな相談拠点。地域と大学をつなぐ窓口としての役割を担います。



交流スペース

カフェレストランや多目的のホールなどの機能があちこちにしみ出す空間。通路や廊下の概念をなくし、空間の各所で多様な活動が自然に生まれます。



多目的ホール

定員約200名の大講義室としての機能に加え、講演会や展示イベントなど多目的に利用できます。交流スペースや屋外へも開かれた設計で、一体的に使うことで地域にもひらかれた大空間となります。

地域創造学部 地域創造学科



北海道の市町村に出向き直接肌で感じて、地域が抱えるリアルな課題に挑戦。
自治体や地域の企業・団体と協力しながら、地域の“今”を学び、“未来”を描く力を育てます。
北科大の理系学部とも連携した地域とともに歩む学びがここから始まり、
地域と企業、そして、そこに暮らす人からも必要とされる存在を目指します。



LEARNING

地域創造の学び

実習系の必修科目を1年次から用意。
北海道全域をキャンパスに地域とともに4年間学びます。



THEMES

学びのテーマ

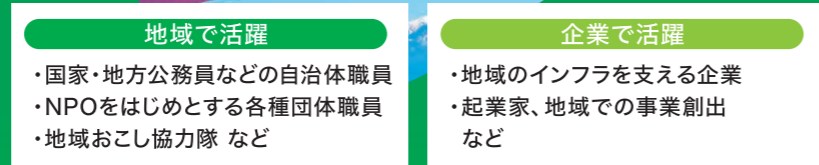
地域をハード（まちづくり）とソフト（ことづくり）の両面に分けて、それぞれの視点から深く掘り下げて学んでいきます。



CAREER

想定される職業

実社会で必要とされる力を育む地域創造学部。
卒業後の進路も地域を軸に広く開かれています。



地域や人とのつながりを大切にして、好奇心を持って挑戦できる。
そんなあなたが活躍できる学科です。

梶谷 崇 教授

理系学部と連携して 地方創生に貢献

地域創造学部は、本学が建学から掲げる「地域社会への貢献」という基本理念のもと、現代社会の喫緊の課題である地方創生に貢献するために誕生します。本学初の文系学科ではありますが、2008年から未来デザイン学部で実践してきた地域連携教育の経験と実績を土台としており、満を持しての学部昇格といえます。最大の強みは、伝統ある理系・医療系分野と社会科学分野が同一学内に共存している点にあります。まちづくりは行政・産業・暮らしと多岐にまたがっており、文系大学ではそれらを社会科学的にアプローチするのが一般的ですが、本学はそれだけに留まらず地域医療の問題には保健医療学部と薬学部、インフラや環境整備などには工学部と、その道の専門家と即座に連携できる体制が整っています。また、手稲駅前に誕生する新キャンパスは、自治体や企業が頻りに出入りし、教員や学生と交流しながら新しいアイデアを生み出すオープンな拠点となっていく予定です。そうして、地域の方々と協働する場面を多くつくっていきながら、学生はもちろん、行政や事業者、地域の方々にとっても「あってよかった」と感じてもらえるハブのような存在になることを目指しています。

物事と向き合う 心と姿勢を育む

地域創造学部の学びは、地域そのものを教材とする学習手法「CBL (Community Based Learning)」を軸に展開します。1・2年次は視察やヒアリングを通じた「理解と観察」から始まり、3年次には、自治体に滞在してプロジェクトの当事者として学びを深めていきます。この4年間で学生たちは社会や経済のしくみから北海道各地の特性までの深い知識、さらには調査や分析、マーケティング、企画書作成といった実務スキルを培います。加えて、私たちが最も重視しているのは「マインドセット」の形成です。地域が抱える課題に自分事として向き合い、諦めず何ができるかを考え、他者と協力して行動

できる力、それこそがこれからの社会に必要となってくると考えています。だからこそ、この学科には学力以上に強い「情熱」を持っている学生に来て欲しいと願っています。北海道を愛し、自分の力で地域をおもしろくしたいという心のある人との出会いと成長を楽しみにしています。



※現在設置構想中のため、内容は学部学科名称を含めて予定であり、計画変更の可能性あります。

情報科学部にも新学科を設置!

HOKKAIDO
II
CAMPUS

IT技術を中心に社会が急速に変化する現代、あらゆる分野でビジネスとITの両方を理解できる人材が強く求められています。

本学科では、デジタルの強みを生かしながら経営・ビジネス領域に挑戦。

次世代のデジタル社会を先導するリーダーを目指します。

「技術を作る」から「技術をビジネスに生かす」へ

経営情報学科は、IT技術が社会基盤となった現代のニーズに応えるため、本学が長年培ってきた工学教育の強みを土台に誕生します。同じ情報科学部にある「情報科学科」がプログラミングやアルゴリズムといった「技術そのもの」を深く追求するのに対し、本学科は「その技術をビジネスの現場でどう使いこなし、価値を生むか」という実践的な活用に主眼を置いています。

SNSアプリを例にすると、情報科学科がアプリを動かす仕組みを開発するのに対し、経営情報学科ではデータ分析を通じて「どうすればユーザーが増えるか」「効果的な広告戦略は何か」を経営的視点から考えます。確かな情報技術のバックボーンを持ちながら、経済や経営の仕組みを理解することで、バラバラになりがちな「現場の技術」と「経営の意思決定」を地続きにつなぐことができる。これこそが文系・理系の枠を越えた進系系人材の育成です。

3つの柱で「経営とデジタル」をつなぐ力を養う

本学科の学びは、「経営・経済」「データサイエンス・AI」「人の理解」という3つの柱で構成されています。4年間を通じて特に磨き上げるのは、単に数値を扱うだけでなく、膨大なデータから課題を見つけ出し「次はどうすべきか」という経営判断の根拠を導き出す「データリテラシー」です。さらに多様なメンバーと議論しながらプロジェクトを動かすチームワークや、デジタルとビジネスの言葉を翻訳して伝えるコミュニケーション能力も、実践的な演習を通じて修得します。

手稲駅前に誕生する新キャンパスでは、地域創造学部[※]など他学科の学生や、札幌圏の企業が集うオープンな環境を生かした学びの広がりを期待しています。地域創造学部[※]の学生が現場で拾い上げた「地域の困りごと」に対し、経営情報学科の学生がITとビジネスの視点から具体的な解決策を提示する、そんな学科を越えたコラボレーションが日常的に生まれるはず。ここで育つ学生たちが、組織の壁を越えて「デジタルと人」を接続し、北海道の、そして社会の新しい流れを作る起爆剤となることを願っています。

[※]現在設置構想中のため、内容は学部学科名称を含めて予定であり、計画変更の可能性あります。

情報科学部 経営情報学科[※]

FIELD OF STUDY

学びの柱

3つの力がバランスよく身につくカリキュラムで、新しい組織づくりを担う人材を育成します。



人を理解する力

多様な人々と協働するための知識と経験



ビジネスを動かす力

企業や社会の課題に対応可能な柔軟な思考



デジタルを活用する力

組織運営や企業経営のためのAIやICTの活用力

SKILL

身につけるスキル

「ヒト・モノ・カネ・データ」を体系的に学び、企業価値を最大化するスキルを身につけます。

専門教育科目



組織づくりの基本となる経営スキル

経営科学、生産管理システム、オペレーションズ・リサーチ、経営情報分析 など



デジタル時代に必要な知識とスキル

ビジネスデータサイエンス、経営情報システム、デジタル技術活用、イノベーション・デザイン など

共通科目

キャリア形成、ビジネススキル、健康科学 など

HUSスタンダード科目

日本語表現法、英語、課題発見解決法、AI入門、SDGs関連 など

CAREER

想定される職業

経営とITの両方の知識を持つ人材だからこそ、さまざまな舞台での活躍のチャンスが広がっています。

一般企業

- ・メーカーの商品開発部門
- ・ビジネスアナリスト
- ・コンサルティング
- ・金融業界のデジタル戦略担当 など

公共・非営利組織

- ・行政機関や教育機関のデジタル化
- ・医療機関のサービス向上、運営効率化
- ・NPO法人で運営効率化や社会課題解決推進
- ・農業共同組合 など

ビジネスに興味はあるけれどパソコンが少し苦手な人、またはパソコンは得意だけれど将来どのように活かせばいいのかまだわからない人。それでも大人になったら社会で活躍したいという思いを持つあなたにおすすめの学科です。

真田 博文 教授